

編 集 後 記

本号は、原著論文3編、症例報告1編、最近のトピックス2編を掲載しています。原著論文の一つ目の川西先生らの報告は、2018年9月に発生した胆振東部地震の被災者への歯科医療支援を行った際の活動記録をまとめ、今後の被災者支援の備えについて提言したものです。1995年の阪神淡路大震災で、口腔ケアの不良により誤嚥性肺炎が増加したことから、2011年の東日本大震災では、歯科医師らの口腔ケアの支援が図られ、誤嚥性肺炎の発症が減少したと言われています。川西先生らの報告では、義歯ケア用品の備蓄の重要性が訴えられています。誤嚥性肺炎の予防と言っても多様であり、義歯のケア用品に注目した点は特記すべき事柄だと思いました。今回の報告を、頻発する災害の被災者の支援に役立ててもらうためにも、ぜひ、多くの方に本論文に目を通してもらいたいと思います。蓑輪先生らの報告は、薬剤性歯肉増殖症における細胞内カルシウムイオンの動態にかかわるタンパク質をコードする遺伝子の発現に関する研究です。歯肉増殖症は、薬剤によって引き起こされますが、プラークコントロールにより、症状が寛解することが知られています。つまり、口腔細菌が増悪に強くかかわります。蓑輪先生らが着目したカルシウムイオンの動態に、細菌の存在が影響するの否かについて興味を持ちました。今度詳しくお話をお聞きしたいと思っています。横関先生らからは、骨再生に関する挑戦的な研究の報告がありました。超音波と脱灰処理した骨を移植した場合、骨誘導の促進がみられたとあり、今後の発展が期待されます。症例報告として、柴田先生らから、解剖学の学生実習で発見した非常にまれな解剖学的所見が報告されました。学生実習においても、学術論文にて公表し得る新しい発見があることを、改めて認識しました。私の担当する学生実習でも、学生の口腔細菌を観察することがあるので、新しい発見がないか、注意して観察するようにしたいと思いました。最近のトピックスの一つ目に廣瀬先生のハンガー反射の歯科への応用に関する報告をご紹介します。最近のトピックスとして投稿いただきましたが、廣瀬先生自身が、見出した知見であり、原著論文に値する内容であると思います。ジストニア症の症例がどれくらいあるのか承知していませんが、それほど多くは無いと推察されます。長年の歯科診療のなかで導き出された知見であり、たいへん感銘を受けました。もう一つの最近のトピックスは、村田先生の薬剤関連顎骨壊死に関する日本口腔外科学会などの諸学会から発表されたポジションペーパーの要点をまとめられた報告です。専門学会が発表するレポートは、専門外の者にとっては、情報量が多く読む気が起きないのですが、このように短くまとめていただくとたいへん助かります。しかし、なぜ、骨形成を促進する薬剤が、骨壊死を引き起こしてしまうのか、不思議でなりません。村田先生に、そのメカニズムについて、本誌上でご教授いただけたら、ありがたいと思います。

今シーズンの当別・札幌地域は、12月頃から、順調なペースで降雪がみられているように感じています。2月現在で、すでに2回ほど、JR学園都市線の運休や遅れが発生し、講義や試験が延期になりましたが、想定内に収まっていると思います。本誌の編集をまかされて2号目ですが、出版が遅れてばかりで申し訳なく思っています。JRも頑張っているようなので、次号からは、大きく遅れないように出版していきたいと思っています。(永野 記)

次号（第43巻、第1号）の発行は令和6年6月30日です。

投稿原稿募集の締め切りは令和6年3月31日必着と致します。期日厳守の上、ご投稿をお願いします。本誌投稿規定は、2023年第42巻、第2号の巻末をご参照ください。